

平成 22 年度

外部評価委員による
新潟薬科大学薬学部自己点検・評価表

平成 23 年 8 月

新潟薬科大学薬学部

はじめに

薬学部では、平成 18 年度から学外の評価委員による外部評価制度を導入し、教員の日頃の教育・研究に関する活動状況を評価いただきました。平成 21 年度の外部評価は、外部評価委員の臨席のもとに、パネルディスカッション形式で主要な委員会から薬学部の教育・学生指導に関するプレゼンテーションを行っていただき、それに対して外部評価の先生方から有益なコメントをいただきました。多くの薬学部教員が参加したことから、教員の FD にも繋がる試みでもありました。

平成 22 年度は、前年度に 6 年制薬学教育の中間報告ともいべき「自己評価 21」を実施したこともあり、外部評価委員の先生方に来学いただく日程を組むことができませんでした。代わりに平成 21 年度の各教員及び各委員会の活動状況について、自己点検表をもとに書類で評価いただきました。厳しい内容のご指摘もありますが、本学薬学部の発展ならびに各教員の活性化に欠かせない有意義なご意見・ご助言であると深く感謝しています。自己点検・評価委員会では、外部評価委員の先生からいただいたご指摘・ご助言、また各教員から寄せられた有意義な提言に対して迅速な対応ができるような体制を整えて行きたいと考えています。

教員各自が自らの「教育力」と「研究力」を向上させていくことで、大学全体としての高い評価につながることを期待しています。

平成 23 年盛夏

薬学部自己点検・評価委員会

平成 21 年度 薬学部自己点検・評価委員会

委員長 (学部長)	北川 幸己
委員	長友 孝文
委員	上野 和行
委員	杉原多公通
委員	鍋倉 智裕
委員	田辺 顕子
委員	山口 利男

平成 22 年度 薬学部自己点検・評価委員会

委員長 (学部長)	北川 幸己
委員	渡邊 賢一
委員	中村辰之介
委員	皆川 信子
委員	鍋倉 智裕
委員	山口 利男

教員の評価

委員会活動の評価

委員会名	将来計画委員会 (予算委員会を含む)	委員名	◎ 北川幸己、杉原多公通、尾崎政宣、中村辰之介、藤原英俊、河野健治、大野智		
① 年間の活動		(4 , 4 , -)			
[コメント]					
<p>● 昨年指摘させていただいた、「教授会の議題整理のような日常的業務」が改善され、また構成メンバーについても若手の登用などの改革があったということは大いに評価できる。来年は6年制の卒業生を輩出する年であり、最も重要な国家試験を含めて、今まで未知・未経験であったかなりの部分が明らかになるでしょう。カリキュラムの再編も必要になるかもしれません。学生の教育研究にとって最善の策を出し合うための議論が今こそ必要であり大学一丸となって対処すべき時だと思います。教育研究のための効率化は本委員会で討議する内容であり、素案を本委員会で作成し、教授会で審議しては如何でしょうか。</p> <p>また、どのような学生を育成するかという大学の教育理念、「教育研究上の目的の明確化」を全教員間で再認識し、教育研究に当たるときと考えます。</p> <p>● 昨年も問題になっていた両委員会を統合化するか独立性を維持するかという議論はようやく結論を得たようであるが、本来将来計画委員会は大局的な視点から将来構想を立てるべきもので、予算委員会では、現実的な視点から優先順位を含めて検討されるものと解する。委員構成も本来別にするのが理想であろうが、具体化への速やかな結論を得るには委員の兼任は必要であろう。その際、大学首脳部、理事者、若手教員の両委員会への適切な配置が必要であろう。</p>					

委員会名	自己点検・評価委員会	委員名	◎ 北川幸己 長友孝文、杉原多公通、上野和行、鍋倉智裕、田辺顕子、山口利男		
① 年間の活動		(4 , 4 , -)			
[コメント]					
<p>● 評価されるのは誰もが嫌がることですが、継続的に外部評価を行っていることに敬意を表します。しかし、昨年も指摘した事項であるが、提言に対する改善策と改善点を明示し、改善点については実現に移す具体的な手段について教職員に示す時期に来ていると思います。拙速は慎まなければなりませんが、改善がなされなければ評価を行った意味も半減するであります。学内競争的教育・研究助成の実施は若手教員の研究意欲向上に有効であり、効果が出てきているように感じられました。厳しい環境下、若手教員に少しでも夢を持ってもらえれば本制度の設置はひとまず成功でしょう。</p> <p>● 学生による授業評価アンケートの結果を教授会で公開したことに続き、学生に対しても公開することの意義はなにか。教員が自身の講義が学生にどのように評価されているかを知ることは自己研さんのためにも重要であり、また教授会での公開も、管理者あるいは同僚による相互評価という点で意味がある。それに対し、学生に対する公開は、本旨に反し、教員に対し無用な精神的圧力を与えかねないのではないか。十分な運用上の配慮が必要であろう。</p> <p>21 年度実施した外部評価委員と全教員参加によるパネル討論、各研究室の取り組み紹介は、教員の生の声が聴け、非常に有益であった。</p>					

委員会名	FD 委員会	委員名	◎上野和行、大和 進
① 年間の活動 (4, 4, -)		<p>[コメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年に引き続いて活発に活動した様子が窺えます。委員 2 名で活動するのは大変だったと思いますが、このような活動を地道に続けることによって教員の自意識が自然と変わってくるものと信じます。一昨年から述べていますように FD は学則に記す義務がありますので今少し委員数も含めて充実しても良いのではないでしょうか。 ● FD 活動は、もともとは学生による授業評価に対処するために始まり、その後教員の資質向上を目指す活動に発展したように思う。プレゼンテーション能力からコミュニケーション能力への広がりが重要。昨年も提案したが教員相互の授業参観、自身の講義をビデオ撮影し、自己評価することが有効。学生を交えてのフリートーキングも相互啓発に役立つと思う。 	

委員会名	学生委員会	委員名	◎尾崎昌宣、高橋努、白崎仁、本澤忍、福原正博、飯村菜穂子、浅田真一、中川沙織
① 年間の活動 (4, 4, -)		<p>[コメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本委員会は学生が関連する諸々の事項について管轄する委員会ですが、今年度は幾つかの新規事業が発足し成果を挙げているように思えます。たとえばアドバイザー制度では 1 教員が 1 ~ 3 学年の学生を担当するというように、縦割りに変更している。今のところメリットとデメリットが出ているようであるが、近い将来効果を表すものと期待される。保護者面談会では保護者の意見を聞く機会を設けることは必須でありましょう。来年度は意見箱「ひとこと Box」設置による反響がどう出るか楽しみである。 ● 過保護時代に育ち、大人と子供が同居しているような状態の中で、理想論を展開しても始まらないが、如何に自主性を自覚させ、生きる力を身につけさせるか、アドバイザー制度を有效地に活用する中で涵養につとめていただきたい。 	

委員会名	教務委員会	委員名	◎ 杉原多公通、渡邊賢一、小宮山忠純、朝倉俊成、星名賢之助、福原正博、武久智一、佐藤浩二、生野昭雄（事務部）
------	-------	-----	--

① 年間の活動 (5, 5, -)

[コメント]

- 教務委員会は私立薬系大学において生命線とも言うべき重要な存在です。本委員会は、昨年に引き続き日常的な業務から将来構想を含むものまで、良く計画され実施されています。「問題点の提起」にある教育方針（アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー）は、どのような学生を育成するかという大学の教育理念に直接関連する事項です。他の委員会評価にも書きましたが、「教育研究上の目的」を全教員間で再認識し、教育研究に当たる必要があると思います。
- また、臨床系教育への基礎系教員の関与については教員数の割合もあり、学生への教育効果を考慮すると一概に否定できない面もあるかと思いますので学内議論をしっかりとすることが必要と考えます。基礎系教員のプロモーションが教育研究業績に依存するならば、その環境を整えるのも大学の重要な役割ですが、それは本委員会業務とは切り離してよいでしょう
- 教務関係の業務は大学機能発現のためのソフト部分に相当する生命線である。昨年度に加えてさらなる試みを導入していることに敬意を表するとともに高く評価したい。卒業論文と著作権の問題は重要。ネットの時代どこまでが本人のオリジナリティか判別することが難しくなっている。

委員会名	図書委員会	委員名	◎ 大野智、皆川信子、星名賢之助、白鳥寛（図書館事務長）
------	-------	-----	------------------------------

① 年間の活動 (4, 4, -)

[コメント]

- 新薬学教育制度になり、実務家教員の配置が義務付けられて大学予算が厳しくなる中、図書費の大幅な削減が多くの大学で行われていると聞くが、新潟薬科大学では予算には比較的恵まれているように見受けられます。図書は教育研究の場である大学の財産であり、充実しているに越したことはありません。今後は決められた予算の中で、如何に効率的に学術雑誌等の整備をするかが検討課題になるものと思われます。現況は全く問題なさそうです。
- 急速な情報システムの進化、すばやく適応する若者の能力も念頭に、斬新な将来予測の上に、図書館機能の充実・強化をはかる必要がある

委員会名	入試委員会	委員名	◎中村辰之介、本多政宣、大野智、高中紘一郎、田辺顕子、酒巻利行、鍋倉智裕、星名賢之助		
① 年間の活動		(4, 4, -)			
[コメント]					
<ul style="list-style-type: none"> ● 昨今の地方私立薬科大学が最も頭を悩ませる最大の問題が受験生確保でしょう。学費減免受験を導入するなど努力されていますが、これにパスする学生は国公立大学にも合格する可能性が高く、実際の効果が薄れてしまったのは残念です。県内の受験生はそれほど減少していないのは強みですが、逆に県外には弱いという結果になっています。薬学は授業料が安くないので、最近の日本の経済状況を勘案すると自宅通学が可能な大学を選ぶという傾向が見られます。学生寮あるいはそれに替わる住居の配備なども考慮可能な一つの選択肢かもしれません。また、教員が近県の高校に積極的に出張授業に出かけるのも宣伝の一つになるのではないかでしょうか。受験生確保については全学的に考えるべき重要事項と思います。 ● 少子化に加え長引く経済不況、受験生の動向を大きく支配する要素は重くのしかかっており、全ての大学が同じ悩みを抱えている。これからは、受験生、保護者双方の目線で戦略をたてる必要がある。今回の東日本大震災は薬剤師の重要性と薬剤師の存在感を示すことになったと感じているが、類似した状況を抱える新潟県の薬系大学として、改めて対策を立てるとともに、社会に薬学の意義を認識させるよい機会となろう（逃げ出す受験生なら不要）。 					

委員会名	国試委員会	委員名	◎ 藤原英俊、佐々木正憲、河野健治、尾崎昌宣、安藤昌幸、高津徳行		
① 年間の活動		(3, 4, -)			
[コメント]					
<ul style="list-style-type: none"> ● 今年は新制度における卒業生のいない端境期であるため、国家試験も留年生を対象とした活動が主業務になったものと考えます。既卒者に模擬試験の送付を行い、国家試験の意識を高めたことは合格率の上昇に繋がり、喜ばしい結果になったと思います。ただ、昨年も指摘しましたように、本委員会と、共用試験対策委員会、CBT 委員会および薬学教育研究センターの業務内容の違いが理解し難く、非効率的に思えます。上記3つの委員会と薬学教育研究センターが良く話し合い、学生の国家試験関連委員会を効率的に一本化できないものでしょうか。中心となる委員会（あるいはセンター）で、各事項それぞれの負担が大きいとすればその委員会（あるいはセンター）の人員を少し増やしても然るべきと考えます。国家試験の合格率は私立薬科大学にとって質の高い受験生確保においても極めて重要な要因になります。 ● 最初の国試の結果がまだ出ない現状では、予測の上に立って様々な試みがなされることとなる。学習成果を示す時間関数は興味があるが、これを実証的に示すためには、インプットすべき数値を事前に正確に把握しておく必要がある。その結果によっては学生に対し説得力を持つと思われる。 					

委員会名	就職委員会	委員名	◎若林広行、池城安正、土橋洋史		
① 年間の活動		(4, 4, -)			
[コメント]					
<p>● 昨年もコメントしましたように、県内の入学生が多くなると、就職先としても多くの人が県内施設を希望するでしょう。提言にあるように約8割が病院や薬局を希望していることですから、今のうちに県内に確かな実績作りをしておく必要があると思われます。たとえば、薬局を対象に週1回くらいの割合で企業セミナー（ランチョンにすれば学生も集まるのでは）を行い、県内薬局と就職対象学生との交流の場を持つても良いかのではないか。入口（入学生）と出口（就職）のきめ細かいケアは在学生や受験生の大学評価において極めて重要な要因になると思います。</p> <p>● 今回の東日本大震災は様々な教訓をもたらした。とくに医療チームの存在の必要性と、その中の薬剤師の役割は薬剤の供給システムの在り方とともに強く認識された。薬剤師過剰を憂うる前に、新しい薬剤師の重要な役割を社会に訴えていくことが必要ではないか。</p>					

委員会名	機器委員会、共同利用 機器施設運営委員会	委員名	◎大和進、安藤昌幸、本澤忍		
① 年間の活動		(3, 4, -)			
[コメント]					
<p>● 機器類は大学の大きな備品であるが、実際には消耗品でもあります。また、研究分野によって、新規大型機器類の購入が必要なときが随時派生してくると思われます。応用生命科学部と共に認識下での利用規定を定めたことは一歩前進だと思いますので、次は経費負担についても検討されることを期待します。有料にすることは研究費の圧迫に繋がりますが、学生の教育にも決してマイナスだけとは限りません。化合物の精製、あるいは機器測定の意義等々について注意を払い無駄をなくすと共に考えることにも繋がります。</p> <p>● 「中央・共通機器の使用に関する新システム」は、機器の適正管理および有効利用という観点からも評価できる。高度先端機器に関しては昨年も指摘したように、人員配置の問題はあるが、専任オペレーターの存在が必須であろう。</p>					

委員会名	国際交流委員会	委員名	◎ 小宮山忠純、鍋倉智裕、酒巻利行、福本恭子
① 年間の活動		(3, 4, -)	
<p>[コメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年から少しづつではありますが、国際交流が動き出した感があります。姉妹校もM C P H S の 1 校のみに固執せず、範囲を広げても良いのではないかでしょうか。交流を行うには予算が伴いますが、海外からの招聘などには旅費、滞在費、研究費等を出してくれる国内の財團を始めとする幾つかの機関がありますので、そのような制度や機関の積極的な利用も考えられては如何でしょうか。 ● 実質を伴った“国際交流”が行われていると評価する。現在は国際貢献から相互依存へと認識はシフトしているが、経済不況の我が国はいささかトーンダウンしているように感じられる。 			

委員会名	臨床実務教育委員会	委員名	◎ 若林広行、上野和行、河野健治、渡邊賢一、影向範昭、朝倉俊成、酒巻利行、杉原多公通（教務委員長）、北川幸己（学部長）
① 年間の活動		(5, 4, -)	
<p>[コメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本委員会の昨年の活動は着実であり評価できます。5年生の病院・薬局での実務実習が始まりましたので、その安全適確な実施に向けて細心の注意が払われていると思います。本委員会がO S C E の実施計画策定を行なっているのであれば、共用試験対策委員会は不要ではないでしょうか。 ● 実務実習では学生が予期せぬことをでかす可能性も大であり、その対応もこの部署が担当すると思いますが、訪問体制の構築と併せて学内整備が望まれます。 <p>新制度下における初めての“臨戦体制”…その緊張感が伝わってくる。地域の関連機関、組織との強固な連携のもと実効のある実務実習が行われることを期待する。将来の改善等に資するためにも、詳細な実施⇒検証の記録を残しておく必要があろう。</p>			

委員会名	サイバーキャンパス 推進委員会	委員名	◎ 杉原、(薬学) 上野、高中、神田循吉、 (応用) 米田、浦上、新井 (事務部) 生野、茂木、白鳥
① 年間の活動	(5, 4, -)		

[コメント]

- 本委員会は今後 I T 委員会にその業務を移行することになったとのことであるが、他大学に先駆けて実施したこれ迄の本委員会の実績は高く評価できる。今後は I T 委員会において、本システムを活用した事業を継続し、学生の効率的な教育に貢献するよう期待したい。
- 心の問題は別として、教育の手段は時代とともに変わっていく。IT 世代の学生に能動的学習をさせる一つの戦略として推進する価値があろう。これまでの蓄積を埋没させることなく有効性を検証する努力は続けるべきであろう。“ナンバー1”を評価しない政権に対しては“オーリー1”で挑戦すべきであろう。

委員会名	公開講座委員会	委員名	◎渡邊賢一、皆川信子、大貫敏男
① 年間の活動	(3, 2, -)		

[コメント]

- 「問題点の提起」にあるように、応用生命科学部と合同で企画運営することが望ましいと思います。地域への還元あるいは地域交流のみならず受験生の確保といった広報宣伝面も考慮した企画があっても良いのではないかでしょうか。今後の活動に期待します。
- 「社会に開かれた大学」、「大学の社会貢献」は今や常識となっている。公開講座はその最たるもので、大学の広報活動としても重要なものである。その意義を認識できれば負担感は軽減する筈である。

委員会名	防災・環境委員会	委員名	◎佐々木正憲、土橋洋史、本澤忍
① 年間の活動 (3, 1, -)			

[コメント]

- 平成22年度より薬学部・応用生命科学部および法人本部を含めて防災・安全委員会に改組されることになったとのことであるが、それにより大学として組織だった取り組みが出来るようになるものと思われます。
- 昨年も指摘したが、大震災を体験した地域の大学としては、危機感も緊迫感もない。お寒い限りである。東日本大震災を教訓として早急に防災対策をたて、教職員、学生に対し訓練を実施すべきである。

委員会名	共用試験対策委員会 (CBT 委員会を含む)	委員名	◎ 北川幸己、杉原多公通、若林広行、藤原英俊、高津徳行、朝倉俊成
① 年間の活動 (4, 4, -)			

[コメント]

- 初めての共用試験のために何か対策をということで設置された委員会と見受けられますが、他の委員会の項にも記載しましたように他の関連委員会（国試委員会、CBT 委員会、薬学教育研究センター）との担当業務内容が明確でなく、多重業務になり、それぞれが困惑しているのではないでしょうか。共用試験と国家試験は一本化した教育体制で、ある一つの委員会が責任を持って活動したほうが効率的に思えます。ただし、共用試験でもOSCEは実務家教員との連携が必要になるため、実務実習とOSCEは臨床実務教育委員会が担当し、CBTと国試はセンターで担当するなどの案は如何でしょうか。
- 今年度の委員会としての活動は着実にこなされたように思います。
国試対策の一環として不可欠な活動。その成果もまもなく明らかになるはずであるが、将来の改善等に備えて、対策→実施→成果→検証の記録を保存する体制を整えておく必要がある。

委員会名	薬学教育研究センター	委員名	◎ 藤原英俊、佐々木正憲、土橋洋史、高津徳行
① 年間の活動 (3, 4, -)			
<p>[コメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本センターの今年度の業務は留年生に対する国家試験対策と成績下位学生への指導と判断します。国家試験過去問題の解説集作りも必要とは思いますが、他の委員会欄にも記載しましたように、CBT や共用試験対策委員会および国試委員会と良く話し合い、国家試験に関する教育体制を見直しては如何でしょうか（問題点として提起されています）。 ● 「薬学教育研究センター」の名称からうける印象とは程遠い。必ずしも新薬学教育制度下で生じた特殊な状況とばかりは言えない。どの大学にも同じ状況は存在する。最近は就職問題もからんで“地獄絵巻”である。学生も対応する教員も精神的ケアが必要になっている。大学全体の問題として全ての教職員が協力する必要があろう。 			

委員会名	高度薬剤師教育研究センター	委員名	◎長友孝文、上野和行、高中紘一郎、影向範昭、朝倉俊成、若林広行、渡邊賢一、北川幸己
① 年間の活動 (5, 5, -)			
<p>[コメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本センターの活動は着実であり、同窓会との共催による「薬剤師生涯教育講座」や他の企画も良く考慮され、実施されていると思います。地域医療の向上および薬剤師の高度化と共に大学の存在意義からもこれから積極的な運営が望まれる。 ● 薬剤師教育は生涯教育で、日々研鑽に努めるべきもの。「教育講座」のテーマも講師の選択も適切である。将来ともに重要な存在になると思われるが、内容をネットで受講できるようにするなど工夫があつてもよいのでは。 			

委員会名	薬用植物園運営 委員会	委員名	◎ 白崎仁、池城安正、武久智一、
① 年間の活動		(4, 4, -)	

[コメント]

- 本委員会も例年と同様に着実な活動が窺えます。「問題点の提起」欄に記載されていることをぜひ継続してください。また、高校生や市民の観察会には、学生（薬用植物クラブ等）の説明案内をつけるときめ細かなケアで評判も良くなると共に、高校生および地域の人に対する大学の宣伝にもなります。
- 地域の人々との交流の意味でも重要な位置をしめる。活動に対する自己評価が欠落しているのが残念である。

委員会名	遺伝子実験施設 管理委員会	委員名	◎ 小宮山忠純、渡邊賢一、尾崎昌宣、 安藤昌幸
① 年間の活動		(3, 3, -)	

委員会名	実験動物施設 管理委員会	委員名	◎尾崎昌宣、渡邊賢一、若林広行、 (応用) 佐藤真治、市川進一、三宅紀子
① 年間の活動	(4, 4, -)		
<p>[コメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日常的な管理業務が主目的の本委員会としては特に問題は見当たらない。昨年もコメントしたように、新規程のスムーズな運用は利用者にとって重要であり、適切な方法を見つけるをめたい。本委員会の問題ではないかも知れないが、薬学研究の中にはヒトを対象とした研究が行われる可能性がある。その際に係る倫理的な問題を扱う「研究倫理規定」が見つかりません。これがないと関連実験が出来ない可能性がありますが如何でしょうか。 ● 文科省の指示の趣旨は“動物倫理”上の配慮ではないかと思われるが、その趣旨を理解した上で運用上の工夫はあっても良いのではないかと考えられる。 			

委員会名	体育施設管理運営委 員会	委員名	◎高橋努、尾崎昌宣、本澤忍、 太田達夫 (応用)、中村豊 (応用)
① 年間の活動	(3, 3, -)		
<p>[コメント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事故やトラブルも無く管理運営が順調に推移したとのことで、特に問題点は見当たらない。予算も本委員会に移管されたので、適切な運用を期待します。 ● 寒冷地での体育施設への要求として自然。あとは予算との相談であろう。 			

委員会名	放射線安全管理委員会 RI 利用施設運営委員会	委員名	◎安藤昌幸、宮本昌彦、梨本正之（応用）、 新井祥生（応用）、鈴木正利（事務部）、神田 優作（事務部）ら
① 年間の活動	(3, 4, -)		

[コメント]

- 「問題の提起」にもありますように、委員に対する負担過多についてはよく検討され、軽減する方向に向かわされたら良いかと思います。しかし、受益者負担の原則から言えば利用教室の責任者ということで、これはある程度は仕方ないことと思えます。負担過多と思わせる他の業務の効率化も併せて検討されたら如何でしょうか。
- 東日本大震災によって、人々の原発、放射能に対する知識や理解はいやが上にも高まった。現在は学生に対し放射線に関する正しい教育を行う良い機会である。

委員会名	大学院入試 委員会	委員名	◎大野智、河野健治、鍋倉智裕、田辺顯子
① 年間の活動	(3, 3, -)		

委員会名	産官学連携推進センター 運営委員会	委員名	小西センター長ほか		
① 年間の活動		(5, 5, -)			
[コメント]					
<ul style="list-style-type: none"> ● 新潟薬科大学の特徴である「薬食」を基盤として共同研究プロジェクトを推進し、またその外多くの産官学連携活動を積極的に行っているのは高く評価できます。地域学術振興及び共同研究の拠点としても今後の活発な活動が期待されます。 ● 意欲的な取り組みを評価する。大学の知的資産を社会に提供し活用する場合、技術の内容を理解し、知的所有権にも精通した有能なコーディネータの存在が必須。その上でベンチャーならば、資金の提供者の斡旋、獲得など組織的な活動も必要となる。 					

委員会名	HP 委員会	委員名	中村辰之介、中村豊、斎藤聰（事務部）		
① 年間の活動		(4, 4, -)			
[コメント]					
<ul style="list-style-type: none"> ● 新潟薬科大学のHPはかなり見やすくなっています。最近、文科省から教員の情報開示に関する通達が来ていますので、それに合わせて各教員のデータ収集を行う必要がありましょう。研究室紹介などでも不統一の部分が見られますので、ある規格で統一されると良いかもしれません。 ● 現在最も有効な広報活動はインターネットのHPであろう。いかにわかりやすく、適切かつ迅速に情報を提供するか…一定の組織が必要かも知れない。 					